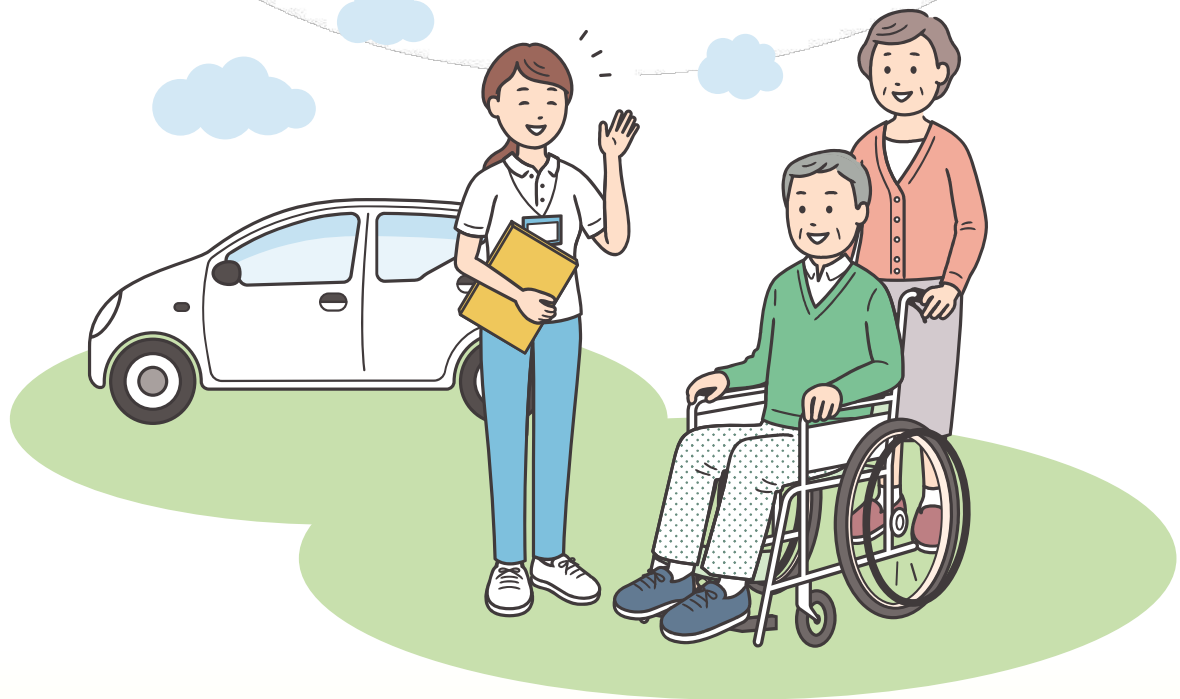


令和7年度

がんばる 介護事業所表彰



高齢者の自立支援や生活の質の向上、雇用環境の改善に
取り組む富山県内の介護事業所等を紹介します

「がんばる 介護事業所表彰」 とは…

高齢者の自立支援や尊厳の保持に資する良質な介護サービスの提供や、介護職員の意欲向上につながる人材育成の充実・職場環境の改善などに積極的に取り組むなど、他の模範となるような顕著な成果を出している介護事業所等を表彰します。これを広く周知することにより、介護サービスの質の向上や介護人材の安定的確保を図るものです。

(平成28年度創設)

対象要件

- (1) 県内で介護保険サービス又は障害福祉サービスを提供していること
- (2) 介護保険法、老人福祉法、高齢者の居住の安定確保に関する法律、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律、労働基準法等の関係法令を遵守しており、過去3年間違反がないこと
- (3) 社会保険（厚生年金保険、健康保険（全国健康保険協会が管掌するもの）、船員保険、国民保険、労働者災害補償保険及び雇用保険をいう）に加入し、該当する制度の保険料の滞納がないこと
- (4) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。）及び暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。）と密接な関係を有していないこと
- (5) 介護職員等処遇改善加算Ⅰ又はⅡ又はⅢ（旧「介護職員等処遇改善加算Ⅰ」相当）を取得していること（介護職員等処遇改善加算の対象ではない事業所については、同等の取組みを行っていること）

以下の2部門を設定し、それぞれ該当する事業所を表彰しています。

自立支援部門

利用者のより豊かな生活の実現を目指して、自立支援・生活の質の向上、介護サービスの質の向上に向けて優れた取組みを進めている事業所を表彰

【取組み例】

- ケアプランに「聞き書きボランティア」などインフォーマルサービスを取り入れたところ、認知症の症状が改善した
- 介護ロボットの活用により、夜間事故を大幅に削減し入院者ゼロを達成した
- リハビリプログラムの細分化や多職種間で連携した介入により、利用者の復職を実現

令和7年度受賞事業所一覧

| 事業所名 | 所在地 |
|-----------------------|-----|
| 介護老人保健施設ささづ苑かがやき | 富山市 |
| 地域密着型特別養護老人ホームささづ苑かすが | 富山市 |
| デイおおくぼの森 | 富山市 |
| 福祉プラザ七美認知症対応型共同生活介護 | 射水市 |
| 訪問看護ステーション十色 | 高岡市 |

雇用環境部門

人材育成の充実や職場環境の改善などに積極的に取り組む事業所を表彰

【取組み例】

- 腰痛リスクの分析や介護ロボット等の導入により、職員の身体的負担の軽減を実現した
- 介護助手の適材適所な配置により、介護職員の負担軽減等、職場環境を改善した
- ICT機器の整備、活用により、データの一元化や業務省力化を実現した

令和7年度受賞事業所一覧

| 事業所名 | 所在地 |
|----------------------|-----|
| 障害者支援施設わかくさの丘 | 富山市 |
| 孫の手デイサービス | 富山市 |
| リハビリ特化型デイサービス Re-TAC | 富山市 |
| ささづ苑デイサービスセンター | 富山市 |
| グループホームささづ苑つばさ | 富山市 |
| 特別養護老人ホームだいが苑 | 高岡市 |
| 堀川南光風苑 | 富山市 |
| 介護老人保健施設みどり苑 | 富山市 |

表彰の経過等

募 集 令和7年9月～10月

選 考 令和7年12月2日(火)

表 彰 式 令和8年2月4日(水)



表彰式 令和8年2月4日(水) 於：富山県庁3階特別室にて

自立支援部門

社会福祉法人おおさわの福祉会

介護老人保健施設 ささづ苑かがやき

| | |
|------|---|
| 所在地 | 富山市春日362-1 |
| サービス | 介護老人保健施設 |
| 電話 | 076-467-5151 |
| URL | https://osawano.com |

評価の ポイント

- 利用者の在宅復帰に向けて、組織全体として専門職が連携するシステム・計画づくりを行っている。

「利用者様の在宅で暮らしたいという思いを実現し、在宅復帰率を49%から61.5%に引上げ、超強化型老健への移行」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

令和6年4月当初は在宅復帰がほぼなく、「在宅で生活がしたい」という利用者の思いが叶えられていない状況でした。

取組みの概要・特徴

「在宅復帰支援チーム」を設置して、毎月1回、全職種代表12名で現状から評価までをICTを用いて共有し、各課で継続的に実践できる体制を構築しました。在宅復帰支援パスを作成し、リハビリ職以外の介護職や看護職等を含む全職種の職員が在宅復帰に向けて共通の目標を持つことを意識しました。

【在宅復帰支援パスの概要】

- ①入所判定会議の実施。
- ②入所時に医師、相談員、リハビリはご家族から情報収集。
(在宅復帰するための条件、介護力、経済力など)
- ③2週間以内に初期カンファレンスの実施。(各職種が在宅復帰のための取組みを決め、1.5か月後の在宅復帰カンファレンス日程調整)
- ④入所から1.5か月後にご家族・ケアマネを招いてカンファレンスを開催。
(医師→ご家族・ケアマネに説明→デイケア・訪問リハ調整開始)
- ⑤入所から3か月後に在宅復帰を目指す。

特に工夫したこと・苦労したこと

長期・看取りの利用者50人、新規利用者30人、繰り返し利用・3か月以内で再入所の利用者20人の割合を目指し、長期・看取りの利用者が増えないようにベットコントロールを行いました。

取組みの成果

在宅復帰率が令和6年度平均49%から令和7年度平均61.5%に上昇しました。令和6年度当初「基本型」から令和7年度「超強化型」に生まれ変わり、介護老人保健施設本来の役割を果たすことができました。



自立支援部門

社会福祉法人おおさわの福祉会

地域密着型特別養護老人ホーム ささづ苑かすが

所在地 富山市下夕林237
サービス 介護老人福祉施設
電話 076-468-1000
URL <https://osawano.com>

評価の ポイント

- 本人やご家族との丁寧な意見交換や本人の状況に適したケアを通して、本人の自立と職員の成功体験を獲得することができた。

「特養から在宅復帰」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

T氏（要介護3 女性 86歳）の生活状況と今後の意向を確認していく中で、T氏とご家族の意向にずれが生じていました。ご家族のT氏への望む意向について、T氏の意向に沿った暮らしを実現しにくい現状がありました。そこで私たちは、T氏の暮らしの中に尊厳を取り戻し、T氏の意向に沿った暮らしを実現したいと考えました。

取組みの概要・特徴

生活面における聞き取りシートを作成し、T氏とご家族から施設での暮らしについて聞き取り調査を実施しました。多職種連携の上、聞き取りシートをもとに、ご家族と細目に意見交換を行い、T氏の意向とご家族の思いをすり合わせました。これにより、ご家族にT氏の意向を知ってもらい、T氏の自己決定を尊重しました。



聞き取りシート

特に工夫したこと・苦労したこと

T氏とご家族が、お互いの意向と思いを知ることが大切だと考え、聞き取りシートに思いも記入できるようにしました。私たちは、お互いの思いを尊重しつつ、T氏の思いを理解してもらうことを核心に据えて意見交換をしました。特に悩んでおられた排泄面では、日々のケアをご家族と密に情報共有し、改善することができました。



家族交流会BBQ

取組みの成果

T氏の意向とご家族の思いを受け止めながら、職員が間を取り持ち、T氏の思いを引き出すことができました。ご家族もT氏の思いを理解する機会を得たことで、T氏の意向を大切にできるよう変化していきました。T氏の元気になっていく姿を見て、ご家族が在宅復帰をイメージできるようになり、在宅復帰の実現に繋げることができました。

ADL評価 令和5.2 70点⇒令和6.10 90点
入居から2年5ヶ月で、在宅復帰を実現できました。

自立支援部門

社会福祉法人おおさわの福祉会

デイおおくぼの森

所在地 富山市下大久保1530-1

サービス 通所介護

電話 076-468-2001

URL <https://osawano.com>

評価の ポイント

- ・「食」をテーマにそれぞれの利用者が役割をもって活動・交流できる仕組みづくりを行っている。

「できるかも から できた に 食から始まる自立支援」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

当デイサービスでは、従来の「通って過ごすだけ」の日課では利用者の主体性や意欲が十分に引き出せていないことが課題でした。そこで、身近な「食」に注目し調理や配膳などを各々ができる場面に合わせて実施することで、達成感や「自分ではできる」「もっとうまいく」等の自己効力感を得られる環境づくりを進めました。



取組みの概要・特徴

「利用者役割制度」と「個別プログラム」を導入しました。「利用者役割制度」では、調理や洗濯など5つの役割を設定し、利用者の身体状態や認知機能、興味・関心等に合わせてその人に合った役割を提案しました。「個別プログラム」では、日々のクラブ活動を複数用意し、利用者自らが活動を選択して実施できるようにしました。利用者の必要とされる喜びや主体性を引き出す柔軟な支援を大切にしました。

特に工夫したこと・苦労したこと

机やキッチンの配置を見直し、作業スペースを使いやすくしました。また、職員の配置やシフト等を見直し、併設事業所（小規模多機能）との協働を進めるなど、現場の負担軽減に努めました。利用者の役割が自信や主体性につながるように、個別調整や職員のケアの転換としての意識改革には時間をかけて丁寧に取り組む必要がありました。

取組みの成果

ADL（基本的日常生活動作）評価は平均17.35から19.65へと13.2%改善しました。また、QOL（生活の質）評価は12.8から22.45へと75.0%向上し、全体の日常生活自立度も19.8%と改善がみられました。利用者が主体的に役割を持って活動したことにより、心身両面における満足度の向上につながりました。



自立支援部門

社会福祉法人射水万葉会

福祉プラザ七美 認知症対応型共同生活介護

| | |
|------|---|
| 所在地 | 射水市七美879-1 |
| サービス | 認知症対応型共同生活介護 |
| 電話 | 0766-86-4545 |
| URL | https://www.imizu-manyoukai.or.jp/ |

評価の ポイント

- 施設の設備や道具を活用した運動プログラムを提供し、利用者の健康を維持し自己決定できるよう努めている。

「筋力・嚥下機能の維持と、自己決定して食べる喜び」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

加齢に伴う筋力や嚥下機能、意欲の低下に対し、従来の体操では個人差への対応が困難でした。そこで、食事の自己決定による意欲向上に着目しました。選択が難しい方にも選ぶ喜びを感じていただき、身体機能の維持と自分らしく過ごすための個別支援を工夫し、生活の質向上を目指しました。

取組みの概要・特徴

個々の「やる気」を引き出すための多角的な個別支援に取り組みました。

- ・双六形式で歩行機会を創出する「歩こう会」
- ・食事の配膳・下膳を自力で行い、食べたい食事も自分で選択してもらう自己決定支援
- ・ストロー等を用いた手作りの肺活量強化玩具
- ・手作りうどん
- ・他事業所と連携した歩行浴



特に工夫したこと・苦労したこと

全員が筋力や嚥下機能の維持・向上に取り組めるよう、認知能力に合わせて写真や文字で伝える等、個別の関わりを工夫しました。特に「歩こう会」では、目的の説明や音楽での雰囲気作りを徹底するとともに、廊下の一往復でコマをマスを進める手作り双六を導入し、ゲーム感覚で前向きに歩くことのできる環境を整えました。個々の「やる気」を引き出すための多角的なアプローチに注力しました。



取組みの成果

半年間の取組みの結果、全員が食事を自己決定できるようになり、過半数の歩行距離が倍増し安定感も向上しました。肺活量運動により嚥下力が改善し、全員の食進が進む中で、運動効果による適正体重（平均-0.8kg）も実現しました。今後も栄養と運動の両面からADL維持に努めます。

自立支援部門

合同会社人間讃歌

訪問看護ステーション十色

所在地 高岡市荻布347-1
サービス 訪問看護
電話 0766-26-1016
URL <http://toiro-station.jp>

評価の ポイント

- ・災害を想定して避難計画の整備や訓練を実施しており、利用者の安全確保に努めている。

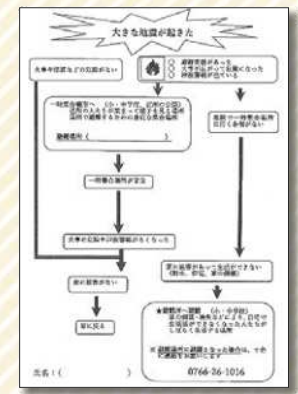
「自宅での災害の際の確認・訓練」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

在宅で生活する方々は、医療的知識に乏しいことが多いです。しかし、「いざ」というときは、本人・家族が対応しなければいけません。そこで、日頃からご自宅に訪問した際に、「なにか起こった時」の対応をイメージトレーニングすることで、災害時の安全確保につながると思い、災害時のフローチャートを作成し、定期的な災害訓練を実施しています。各々自宅の構造や家族背景が違うため、各個人の在宅においての災害を想定しています。

取組みの概要・特徴

訪問看護を開始の際に、災害時の避難場所等を情報収集し、フローチャートを作成します。それを各自宅の目の届くところに置いてもらって、フローチャートを元に避難訓練を実施しています。最初の配布時、年に1～2回の確認を行っています。特に、安全を確保するために頭部を守る方法、避難経路の確認、医療機器の災害時の非常作動の操作を実際に行ってみて各自イメージトレーニングをしてもらっています。



特に工夫したこと・苦労したこと

利用者の中には独居の方、認知症の方、障がい者の方などもあります。独居の方には自分でできるその人に合った方法で、さらに認知症の方には何度も繰り返して行います。また、障がい者の方にはできることが限られているので、障がいがあってもできることを探し、できる方法を一緒に検討しています。個別性や訓練の回数は、その人やその環境によって検討し、実施しています。



取組みの成果

この取組みを実践してから2年後に実際に、能登半島地震が発生し、氷見・伏木の利用者さんたちが被害にあわれることになりました。その際、利用者さんやご家族より、日々の訓練していた内容を思い出しながら、避難所へ避難をしたり、医療機器の対応をされたとの声を聴きました。日頃の訓練を繰り返し行うことでいざというときのヒントになればと思っています。

雇用環境部門

社会福祉法人セナー苑

障害者支援施設 わかくさの丘

| | |
|------|---|
| 所在地 | 富山市坂本3110 |
| サービス | 障害者支援施設 |
| 電話 | 076-467-0679 |
| URL | https://www.senaen.or.jp/ |

評価の ポイント

- ICTの活用にあたって職員向けの研修を丁寧に行い、業務の効率化と職員の負担軽減に取り組んだ。

「ICTの活用により職員の負担軽減等」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

介護記録・転記業務の負担が大きく、利用者支援の時間を割くことや利用者一人ひとりの記録がとれないことがありました。また、勤務時間のずれ違い等で、職員間での情報共有、引継ぎがスムーズにできていない状況でした。さらに、頻回な巡回による利用者の睡眠の覚醒も課題になっていました。

取組みの概要・特徴

- 介護記録システム「ケアカルテ」、音声入力アプリ「ハナスト」を導入するとともに、iPhone（11台）、インカム（5台）、パソコン（4台）の利活用により、介護記録等の時間削減を目指しました。
- 眠りスキャン導入により、利用者の睡眠状況を知ること、安眠の確保、また職員の夜勤業務の精神的・身体的負担の軽減に取り組みました。



特に工夫したこと・苦労したこと

- 介護記録システム導入前に複数の商品を比較し、最も利便性の高い物を選定しました。
- 導入後はICT推進チームを設け、入力作業項目の標準化や、誰一人取り残すことのないような丁寧な研修を進め、全支援員が端末を使える体制を整備しました。
- 眠りスキャンでは個々の睡眠パターンに合わせた設定に時間がかかりましたが、心拍・呼吸数の変化を早期に把握できるようになりました。

取組みの成果

- これまでの記録に費やしていた1回あたりの作業時間は、30分から15分程へと短縮し、また音声入力などでリアルタイムに記録することで、情報漏れが少なくなりました。その結果、短縮された時間をより適切な介護業務に充てることができるようになりました。
- iPhoneで通院先から記録をすることで、迅速に情報が共有できるとともに、通院後の記録の必要がなくなり、職員の負担軽減になりました。
- 眠りスキャン導入により巡回時間は1/3程度に減りました。頻回な訪室がなくなり、安眠の確保や、睡眠データを活用した個別ケアの質も向上しました。



雇用環境部門

デイトライト株式会社

孫の手デイサービス

| | |
|------|---|
| 所在地 | 富山市四ツ葉町19-3 |
| サービス | 地域密着型通所介護 |
| 電話 | 076-471-8006 |
| URL | http://blog.livedoor.jp/daylight_magonote/ |

評価のポイント

- 外国人スタッフとのコミュニケーションやサポート体制を整備し、働きやすい職場づくりを推進。

「外国人材の「確保」と「育成」～介護福祉士取得」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

施設立ち上げ当初から介護スタッフ離脱が続き、人材確保安定とは程遠い施設でした。将来の人材不足は言うまでもなく、この危機的状況を打破するために、2020年頃から外国人材雇用を検討しました。外国人紹介業者を通し、紹介業者、就業希望者と面談しながら、外国人雇用に伴う手続き、トラブル事案の情報等を集め、社内で外国人材雇用の受け入れ体制を整えました。

取組みの概要・特徴

外国人職員が入社後安心して業務に集中できるように住居など生活面を支援しました。言語や文化、ビジネスマナー、介護知識や技術、社内で使う日本語を母国語に訳しマニュアルを作りました。分からないこと、不安なことはすぐ相談できるように面談や研修時間を多くとり、介護福祉士取得のための勉強時間も設けました。年齢性別国籍にとらわれず、能力や成果を基に人事評価を行いました。レクリエーションを通し利用者さんと職員の多様な考えを認め合い、明るく楽しい居場所作りに取り組みました。



特に工夫したこと・苦労したこと

同じ国の人材を1～2年毎に1人ずつ増員する事で、「分かる→できる」にレベルアップ。母国帰省（長期休暇）の勤務調整により、日本人スタッフの休日も取りやすくなりました。



取組みの成果

外国人職員の勤勉な姿勢に影響され、チーム全体の度量が上がり、コミュニケーションが増えました。2期生、3期生の受け入れにより人員不足が解消され、個別指導ができ、職員全体のレベルが上がりました。1期生が、計画通り介護福祉士試験に合格しました。

雇用環境部門

合同会社 Re-TAC

リハビリ特化型デイサービス Re-TAC

所在地 富山市日俣157-1
サービス 通所介護
電話 076-460-3034
URL <https://re-tac.net/>

評価の ポイント

- ・事務作業にかかる時間を節約し研修等の時間を確保することで、業務の質の向上につながっている。

「業務効率改善でタイパ向上」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

年々増えていく法定研修や職場環境等の要件に適應していくために、時間を捻出しつつ質を落とさずに、お客様を増やしていくことが最大の課題でした。そのため、事務作業や法定研修を如何に業務時間内に収めて、かつ質を担保するかを考えていました。

取組みの概要・特徴

令和7年から業務ローテーションを本格化し、業務時間を短縮することで事務作業の時間を捻出しました。全職員がローテーションに参入できるように、各業務を共通業務と専門業務に分けました。PC作業に関しては、ネットワークの構築とGoogleスプレッドシートの導入によって同時入力を可能にしました。



特に工夫したこと・苦労したこと

一番苦労したのは、業務改善を継続する風土を醸成することでした。これには何回も資質向上研修と話し合いを繰り返して土台作りにも励みました。形骸化しないように朝礼でリマインドして終礼でフィードバックをしました。AI、表計算、エクセルのマクロを組む事なども活用しましたが、定着や習得のための時間捻出に苦労しました。



取組みの成果

プラットフォームと平行棒を追加し、フロア回しが出来たことで、ストレッチの待機時間が解消され、現場での時間効率が向上しました。ストレッチは1日の合計で約50分程度の効率改善、書類に関してはモニタリングの時間は延べ60時間→24時間まで短縮、口腔機能の書類整理時間は人員が半分になって時間も10分短縮、口腔ケアも1日30分の短縮となりました。これらの取組みにより、個別介入の時間が増加し、LIFEや計画書の作成時間を設けることで業務時間の質の向上が図られました。

雇用環境部門

社会福祉法人おおさわの福祉会

ささづ苑 デイサービスセンター

| | |
|------|---|
| 所在地 | 富山市下夕林141 |
| サービス | 通所介護 |
| 電話 | 076-467-5155 |
| URL | https://osawano.com |

評価の ポイント

- ・業務改善に取り組み、休暇を取りやすくなる体制と意識が職場に浸透している。

「働きやすい職場環境作りに取り組み、連続5日間のリフレッシュ休暇希望者は100%取得できる環境」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

デイサービスは定員に応じた人員配置基準があるため、欠員時も代替対応（送迎・入浴業務等）が必要で、簡単には休みづらい構造を抱えています。そのため、業務改善に取り組み、働きやすい職場環境作りをスタートしました。

取組みの概要・特徴

リフレッシュ休暇100%取得を事業所目標に掲げ、実現の為に業務のDX・ICTの推進を行いました。

- ①介護記録の音声入力（ケアカルテ・ハナスト導入）
- ②送迎管理業務のAI化（DRIVEBOSS導入）
- ③連絡帳の簡素化（定型文の設定）
- ④申し送りや職員間連絡の音声化（インカム14台・スマートフォン13台・タブレット7台導入）



特に工夫したこと・苦労したこと

テクノロジー活用による業務改善のほかにも、仕事へのモチベーション、チームワーク維持向上を大切に、朝礼の工夫（朝ポジティブな気持ちから開始できるようにスローガン＆ポージングを募集し毎朝実行）など、ポジティブに仕事、目標に向けて取り組める働きかけを継続していきました。



取組みの成果

- ・令和6年度リフレッシュ休暇希望取得者8名（100%）取得達成。
- ・送迎表作成業務の自動化・デジタル化に挑戦し送迎表作成業務が4時間→1時間程度に削減成功。
- ・有給休暇消化率 47%（5年度）→57%（6年度）
- ・時間外労働 R6.4～9 45.7時間→ R7.4～9 15.1時間
約30時間の削減に成功

雇用環境部門

社会福祉法人おおさわの福祉会

グループホーム ささづ苑つばさ

| | |
|------|---|
| 所在地 | 富山市春日368-1 |
| サービス | 認知症対応型共同生活介護 |
| 電話 | 076-468-7337 |
| URL | https://osawano.com |

評価の ポイント

- ICTの利用が不慣れな職員に対してもフォローを行い、利用者のケアに関わる時間が増え職員の働きやすさ向上につなげた。

「記録時間短縮・申し送り廃止からの企画件数増加の職場環境改善」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

職員間の申し送りに多くの時間がかかっていること、申し送り内容のばらつき等による職員間の連携やケアの質にも影響が出ることを懸念していました。こうした課題を改善し、業務の効率化と職員の働きやすい環境づくり、利用者様との関わりの時間をより多く確保することを目的として、ICTツールである「ハカルト」（介護業務のタイムスタディを行い、業務改善を自動提案するアプリ）及び「ハナスト」（記録・申し送り等の間接業務をAIと音声入力で行なえるアプリ）導入を決めました。

取組みの概要・特徴

音声入力アプリ「ハナスト」、介護記録システム「ケアカルテ」の連絡機能を活用し、申し送り方法の見直しを実施しました。対面での申し送りを廃止し、令和6年11月より、夜勤者は8:30まで、日勤リーダーは16:30までに音声で行う申し送りに変更しました。出勤後に職員は内容を再生音声で確認でき、情報の伝達漏れを防ぎながら、申し送り時間の短縮と記録業務の負担軽減を実現しました。結果として、利用者様との関わりの時間を増やし、職員の働きやすさの向上につなげることができました。



特に工夫したこと・苦労したこと

効果を最大限に引き出すための4つの工夫を行いました。職員同士が情報共有を密に行い、問題点や改善点について随時話し合う場を設けました。

- ①日時、夜勤・日勤の区別、及び担当ユニットを明示
- ②必ず音声を再生して内容を確認
- ③職員間で定期的にフィードバック実施、操作に不慣れな職員への支援・マニュアル作成
- ④重要事項や緊急性の高い内容については、別途口頭でのフォローアップを徹底



取組みの成果

職員が主体的に音声入力を活用し、業務効率化と利用者様との関わりの時間確保を実現できたことで、記録にかかる時間が10~30分の削減、他スタッフへの応援依頼に「ハナスト」連絡機能使用率は約100%です。成果として、外出会やおやつ作り等の起案件数が、令和6年4月~9月24件→令和7年4月~9月36件に増加し、利用者満足度向上に繋がられるようになりました。

雇用環境部門

社会福祉法人戸出福祉会

特別養護老人ホーム だいが苑

所在地 高岡市醍醐1257
サービス 介護老人福祉施設
電話 0766-62-0480
URL <https://daigoen.com>

評価の ポイント

- ・テクノロジー活用について職員向けの指導や意識醸成に取り組み、業務の効率化を図っている。

「デジタル技術の活用による事務負担の軽減を通じて利用者に向き合う介護時間の確保を実現しました。」

取組みを始めた背景・経緯

慢性的な人材不足で業務負担が増大し、事務作業が利用者対応や書類作成、情報共有を圧迫していました。業務効率化による負担軽減と、ケア品質・職員満足度・組織力向上を目的に取組みを開始しました。

取組みの概要・特徴

AI音声認識ICTレコーダーを活用し、会議や担当者会議の議事録・書類を自動作成しました。AIによる文書テンプレート化や起案支援で業務効率化を推進し、さらにグループウェア導入により、情報共有、稟議、研修、連絡を一元化し、業務全体の省力化を実現しました。

特に工夫したこと・苦労したこと

AI活用を定着させるため、会議でのICレコーダー使用をルール化し、有料プランも導入しました。台数不足時の代替運用も周知しました。また、副業人材制度を活用し、専門家から直接指導を受け職員の活用力を底上げしました。グループウェアは対象別配信や紙に頼らない運用を徹底し、現場への浸透に工夫と苦労を重ねました。



取組みの成果

AI議事録を会議中に実演し効果を可視化、作成時間を80%削減できました。生成AI活用でチラシ制作費のゼロ化を達成しました。フリーPC整備とグループウェア活用により、変則勤務職員への全周知期間（平均5日⇒2.5日）も半減し、業務効率と職員負担を大幅に改善できました。

雇用環境部門

社会福祉法人光風会

堀川南光風苑

所在地 富山市本郷町262-15
サービス 地域密着型特別養護老人ホーム
電話 076-464-3133
URL <https://koufuukai.jp>

評価の ポイント

- 施設内で機器の運用について協議し、職員の負担軽減・利用者家族が安心できるサービスの提供ができた。

「ICT機器（眠りスキャン）を活用し職員の心理的負担感の軽減」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

当施設では、1フロア19人のご利用者を夜間帯は職員1名体制でお世話しています。また年々看取り介護のご利用者も増え、心理的負担を感じている職員も多い状態でした。今回、職員の心理的負担感を軽減する目的で眠りスキャンを導入し、業務改善に取り組みました。

取組みの概要・特徴

令和6年4月から、特養全床（29床）に眠りスキャンを導入しました。導入効果を検証するため、4月・7月・10月の3回にわたり職員向けの調査（SRS-18）を行い心理的負担の変化を測定するとともに、夜間帯のタイムスタディ調査も行いました。調査結果をもとに生産性向上ガイドラインを参考に、業務改善に取り組みました。



特に工夫したこと・苦労したこと

モニターを見慣れることから始め、眠りスキャンを有効に活用するために、毎月の特養リーダー会議や生産性向上委員会でも職種での話し合いを行いました。夜勤帯にモニター上で異常が確認された時は、オンコールで看護師に詳しい状態を報告・相談し対応するようにしました。機器の不具合発生時にはメーカーに相談し調整も行いました。



取組みの成果

モニター上で可視化されたことにより、1時間に1度の巡視回数を減らし、また覚醒を確認した時に排泄介助を行うことで、ご利用者の睡眠の質を高めることができました。職員向けの調査では、心理的負担の軽減が図れたことに加え、仕事に対するモチベーションが高まったことも確認されました。

雇用環境部門

医療法人財団五省会

介護老人保健施設 みどり苑

| | |
|------|---|
| 所在地 | 富山市秋ヶ島146-1 |
| サービス | 介護老人保健施設 |
| 電話 | 076-428-5565 |
| URL | https://www.sainouhp.or.jp/midori/ |

評価の ポイント

- DX推進委員会やSE担当者が連携し、大規模な設備投資を行って業務改善に取り組んでいる。

「最新の見守りシステムや介護ソフトの導入により介護DXを推進し、職員も利用者も安心できる環境づくり」を実現しました。

取組みを始めた背景・経緯

23年前に導入したナースコールの老朽化が進んでおり、利用者の安全のために代替品の設置が急務でした。また居室内での転倒事故の検証手段がなく、有効な対策方法の立案が困難な状況が続いていました。介護ソフトの導入については、記録業務の負担が増加しており、利用者に向き合う時間が削られていました。DXの推進により生産性の向上を図ることが必要でした。

取組みの概要・特徴

- 令和7年1月に、富山県で初めて最新の見守りシステム「HitomeQケアサポートシステム（以下、ヒトメク）」を入所棟の100床全床に導入しました。各部屋の天井に設置されたセンサーを通じて、利用者の動きが職員のスマホに通知されるようになりました。
- 令和7年1月に、介護ソフト「ケアカルテ」を導入。ヒトメクや眠りSCAN等の介護ICTツールとのデータ連携が可能であり二重登録の手間が省けるほか、音声入力ツール「ハナスト」の機能を使用することで記録時間の大幅な短縮につながりました。



特に工夫したこと・苦労したこと

- ヒトメクとケアカルテの導入にあたり、DX推進委員会のメンバーを中心に「意思決定チーム」と「推進チーム」を結成し、定期的な打ち合わせを重ねました。またDX推進にあたりSE担当者を配置し、各部署へのきめ細かいサポートを行いました。
- ヒトメクの導入については数千万円単位の設備投資となるため、事前に事業計画を何度も練り直し、業者との交渉も長期間に渡りました。



取組みの成果

【ヒトメクの導入効果】1日の訪室動線が1時間→45分に短縮(25%削減)したほか、夜勤体制を5人体制→4人体制に変更し年間約400万円の人件費削減につながりました。

【ケアカルテの導入効果】1日の記録作業時間が1時間→5分に削減(92%削減)したほか、インカム機能の活用により無駄な動線を1日30分→10分に削減できました(66%削減)。

〈参考〉過去の受賞者

令和5年度

自立支援部門

| 事業所名 | 取組概要 |
|--|--|
| 特別養護老人ホーム梨雲苑 (社会福祉法人梨雲福祉会) 〈富山市〉 | 利用者自身が、自ら選び、自ら買い物する機会を創出するため、移動スーパーを運用。地域包括支援センターや地元の町内会と連携して、地域住民にも幅広く周知を行うことで地域住民の利用も促進。 |
| 特別養護老人ホームささづ苑 (社会福祉法人おおさわの福祉会) 〈富山市〉 | 利用者にコロナ禍以前の日常生活を取り戻してもらうため、家族との触れ合いの時間や地域の友人との団欒等の機会を創出するなど利用者の自己実現を支援。 |
| デイサービスまめの木 (有限会社まめの木) 〈富山市〉 | 利用者の身体の状況を丁寧にアセスメントし、多職種と連携しながら、職員が利用者寄り添った支援を行うことで利用者のQOLの向上を実現。 |

雇用環境部門

| 事業所名 | 取組概要 |
|--|--|
| 朝日山ケアセンター (社会福祉法人萬葉の杜福祉会) 〈氷見市〉 | 職員が心身ともに健康でいられる「ウェルビーイング」を意識した職員の資質向上研修を実施。 |
| 特別養護老人ホーム射水万葉苑 (社会福祉法人射水万葉会) 〈射水市〉 | 新入社員一人一人に先輩社員が直接指導し様々な面でサポートするエルダー制度を導入し、早期離職ゼロを実現。 |
| アルカディア雨晴 (医療法人社団明寿会) 〈高岡市〉 | 音声入力に対応した介護支援ソフトウェアを活用し、介護現場における介護記録や書類作成時の業務負担の軽減、ケアの質の向上を実現。 |

令和6年度

自立支援部門

| 事業所名 | 取組概要 |
|---|--|
| グループホームあっとほ〜む砺波 (医療法人社団明寿会) <砺波市> | 地域の一員として、あっとほ〜む砺波を知ってもらうとともに地域の方々との交流を図ることを実現。 |
| リハビリ特化型デイサービス Re-TAC (合同会社 Re-TAC) <富山市> | ヘルスリテラシーを高め、地域の方が住み慣れた場所で住み続けることの実現をサポート。 |
| 老人保健施設アルカディア氷見 (医療法人社団明寿会) <氷見市> | 「通所ケアに通ったなら、その施設で朝顔を植えてあげたい、皆さんに見せたい」という目標をもっていたI氏(90代男性 要介護度2)の思いを実現。 |
| 射水万葉会天正寺サポートセンター (社会福祉法人射水万葉会) <富山市> | 災害時の自助、公助の体制整備を行い、防災という非日常の行動をどのように日常生活の中に取り入れていくのかを念頭に防災の取り組みを実施。 |
| 介護老人保健施設みどり苑 (医療法人財団五省会) <富山市> | 脳卒中片麻痺利用者の復職を実現。 |

雇用環境部門

| 事業所名 | 取組概要 |
|--|---|
| グループホーム天神金さん銀さん (特定非営利活動法人生活支援センターアットホーム新川) <魚津市> | ICTの活用で職場環境の改善を実現。 |
| 介護老人保健施設ささづ苑かがやき (社会福祉法人おおさわの福祉会) <富山市> | 職場環境改善のために短期間でICTを導入・利活用し、介護現場の連携を強化したことで、半年間で基本型から強化型老健になることを実現。 |
| 特別養護老人ホーム梨雲苑 (社会福祉法人梨雲福祉会) <富山市> | SNSを活用し「介護の魅力」「施設の魅力」「職員の魅力」を発信し、法人の認知度向上、職員の帰属意識向上を実現。 |
| 小規模多機能型くれは陽光苑 (社会福祉法人陽光福祉会) <富山市> | Googleフォームを活用し「訪問サービス」の実施記録のパソコン入力の時間、実施チェック表作成時間短縮を実現。 |
| アモール居宅介護支援事業所 (株式会社アモール) <富山市> | 介護支援専門員の働き方を模索し在宅ワークへの取り組みを実施。 |

がんばる介護事業所表彰



令和8年3月発行

編集 社会福祉法人富山県社会福祉協議会
富山県福祉カレッジ
とやま介護テクノロジー普及・推進センター

発行 富山県厚生部高齢福祉課

発行所 〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
TEL 076-431-4111(代)